

## ●「1億人が行きたくなるブックオフ」(プレゼンテーション賞受賞)

知事： 日本国民だったら誰でも行きたくなるようなブックオフにしようということですか。こうやって比べてみると確かに面白い。どう改善すればいいのかを比べてみることで改善点がよく見えてくるでしょうね。通路の横幅が1 m10cm 以上で、本棚がこういう形になっているのいいというのは、素晴らしいです。今後お店を作る時に、多くの人が参考にしてくれるかもしれないですね。

生徒： 最低ラインなので、本を読んでいる人が少し後ろにずれたらもう少し広げないといけない、もう 10cm、20cm 広い方がいいかなとも思います。

知事： 私は、ブックオフを調べてみようとした時に、1店だけではなく、いろいろな店を回ってみたことは調査の仕方として優れていると思います。本当の姿が見えてくることがあると思うんです。ただ、もしかしたらそれぞれの店の特徴は店の立地にもよるんでしょうけどね。だから一概に比べられないかもしれませんが、例えば駅前だという条件は一緒にしてみて、だけど入っている人の数が全然違うとしたら、どこに違いがあるのかを調べてみると、売れる店、売れない店の秘密が分かってくるかもしれません。こういう調査は、大人になって、ビジネスマンになるとさんざんやることになると思いますが、いい練習になったことと思います。

提案の「高知県が資金を出してブックオフから本を貧しい国に提供する」ですが、外国だとももしかしたら言葉の壁があるかもしれませんね。ブックオフは売れない本をどうしているんでしょう。

生徒： 時々キャンペーンとかで全国に配ったりするらしいです。全部そういうわけではないと思いますが、あまりそこは詳しくは調べてないです。

知事： もし単に捨てているだけでしたら、何か公のことで使えるようにしてもらったらいのかもしれませんが。どうやっているのかも大いに関係しているのかもしれませんがね。

教育長： 何店舗かで特徴があって、興味としてはどのお店が一番売上がいいのかをチェックできたら最高だと思いました。具体の提案があって、理想のブックオフの姿があって、私はずっと感心して聞いていました。連携方法で一工夫があったらもっと良かったと思います。それから処分する本ですが、どこかの県の図書館で、処分をする本で使えるもののバザーをやっていました。